

アイヌタイムズ 第41号 日本語版

★ 北海道エスペラント大会

2006年9月30日(土)に札幌で第70回北海道エスペラント大会が開かれました。エスペラントを使う者は、世界中の色々なことばを大切にすることです。私もそう思いますので、白老の大須賀さんと二風谷の萱野さんに「アイヌ語復興運動」のお話をお願いしました。大須賀さんのお話のテーマは、「白老でアイヌ語を学ぶ」です。大須賀さんは、ラジオ講座でアイヌ語を教えたり、白老で1998年に「楽しくやさしいアイヌ語教室」を開き、メンバーを弁論大会に出しました。

大須賀さんは、「エゾオオカミの小神の自叙伝」をやってくれました。以前に、白老の上野ムイテクン媼(おうな)が、この神謡をやっていました。アイヌ神謡集「小狼の神が自ら歌った謡『ホテナオ』」と似たような神謡です。

萱野さんのお話のテーマは、「アイヌ語を普及するために！」です。萱野志朗さんは、亡くなったお父さんの茂さんが国会議員であった時に、茂さんの親友だった故五十嵐広三さんが内閣官房長官で、保守派と調整して苦労して「アイヌ文化振興法」を実現したという話をしてくれました。

また、志朗さんは、アイヌ語普及のために「アイヌ語特区」やアイヌ語を含む「公用語法」を考えています。

聴衆から次のような意見がありました；「アイヌ語テキスト『a=kor itak』やアイヌ語ラジオ講座には標準語というものがないが、ヘブライ語のようにアイヌ語を普及するには、方言を大切にしつつも標準語が必要です。」しかし、実現は難しいようです。

エスペラントを使う人が、争うことなく話し合いができるように世界中のことばのことを考えて、書かれてある「プラハ宣言」というものがあります。これをアイヌ語で作って、エスペラント大会の記念品として配りました。これはアイヌタイムズの編集長浜田さんの協力で作ったものです。

この講演の話は、インターネットにも書かれています。

<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/kongrej/70kon-j06.htm>

講演の内容を聞くこともできます。

http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/70aHEL_mp3koen/70aHEL_mp3koen.htm

[横山 裕之] 沙流・千歳